

人材育成ゆふいん財団ニュース

0歳から100歳まで…

『子ども達の未来を育む、安らぎの町』



- * 平成18年度事業計画 1ページ～2ページ
- * 平成18年度収支予算書 役員紹介 3ページ
- * 助成金交付事業・他 4ページ
- * 木綿の会INFORMATION 5ページ
- * ゆふいん元気！TOPICS ゆふいんあの人この人 6ページ
- * ゆふいん元気！TOPICS 助成金交付事業公募について 7ページ
- * 国際交流事業 8ページ

- 発行日／2006年6月10日39号
■発行／(財)人材育成ゆふいん財団
■発行人／理事長 溝口薰平
■編集責任者／常務理事 佐藤晶
■編集／事務局企画委員会編集部
■住所／湯布院町川上2863
(クアージュゆふいん内)
TEL85-4748
FAX85-4759
■E-mail／zd21yufu@elf.ocn.or.jp

韓国の文化にふれてみよう

①ふれあい学習事業

今年度も「アジアの中の日本、アジアの中のゆふいん」ということで「ふれあい学習事業」として、「ふれあい交流子ども使節団」派遣事業を行なっています。

今年も訪問地は「韓国」とし、継続的な交流・親善を企画し、8月の下旬実施の準備を行なっています。

団員の資格は、小学六年生から中学三年生までです。いろんなことを吸収していく大切な時期に、短い期間ではありますが、日本、湯布院から一歩外へ出て、視野を広げていただければと考えています。

「お隣の国／韓国」さほど日本と変化のない生活を送っているのではないだろうかと思われている方も多いかも。そう、近くで遠い国が「韓国」

なのかもしれません。お隣の国なのに知らないことが山ほどです。これまでの研修で思ったことの一つが語学力の差。交流した韓国の同世代の子ども達は、普通に、英語が上手に話せるのには大人もびっくりでした。そんな韓国の子供たちと交流を深め、語学への関心が高まることも「国際化への第一歩」です。その歩みは小さくとも、英語を使って話せるお友達ができるることは、素晴らしいことです。もちろん、子供たちのお得意は「ボディーランゲージ」で、気持ちが通じ合うことで意思疎通をし、すぐに仲良しになっていくのにはこれまたびっくりでした。今年の韓国、2泊3日の行程は、交流を中心に、東大門市場や世界遺産となっている場所を見学する予定です。見て、聞いて、触れて、そこから日本・湯布院の良さを探していきましょう。

■応募に関しては8ページ参照

話題が巡る まちづくり

②情報ネットワーク事業

町の中に「話題が巡る」。

町の中の活発な動きを情報発信して、生き生きとした地域作りを目指します。

●財団ニュースの発行

「財団」の動きを知つていただくためのニュースを発行いたします。今回のように、年度始めに收支予算の報告や年間の事業計画を掲載したり、事業が終了した時点で、結果報告をしたり、一つ一つをしっかりとお知らせしていきます。

●講演会の開催

「財団ってどういうところなの?」そういった声をよく耳にします。そこで、財団の事業・テーマに沿つた内容での講演会を実施し、財団事業を知つていただくための会を設けます。また町内の講師によるミニミニ講演会等を企画・検討していきます。

●広報支援

行政・商工・観光・農業・その他地域づくりグループなどから情報を収集し、財団の主旨に沿う事業を実践する活動への広報支援を行ないます。

●ホームページの作成・活用

現在、ホームページを作成しようと取り組んでいます。



財団の活動内容や様々な町内の情報を掲載し、町外へと発信できるような体制をつくり、運営・管理を行ないます。

作成が完了しましたら、お知らせいたします。

●事務局通信の発行

直接皆様のお手元に届く通信ではなく、財団の役員の間で情報を共有するための通信です。役員は、忙しい仕事の合間を縫つて会議に駆けつけてくださいますが、なかなか容易いことではありません。

そこで、会議の内容や事業の経過報告等をFAXにてお知らせすることにより、業務の円滑化を図つていきます。

元気が育む マチの力

③助成・顕彰事業

『ひとりの元気が大きく育ち、多くの元気が町を育む』

●未来に夢を!

助成金交付事業

夢、実現の応援をします。人、町を育む環境作りを大切に、財団の提示する主旨に沿つた内容の企画、実施をしようと頑張っている団体を公募いたします。公正なる選考委員会において、助成団体を決定し、助成金を交付いたします。

※応募要綱は、7ページをご覧ください。

●顕彰事業

財団の主旨、目的に大きく寄与した団体・個人を顕彰いたします。選考につきましては、別途、選考委員を設置し、選考を行ないます。

●後援事業

主体的、実践的な活動を実施している団体、個人を対象に、広報活動による支援協力、また活動に必要な情報提供などの後援を行ないます。

また、後援協力金を伴う後援事業も役員会で協議の上、実施していきます。

今年度は事業を少し減らし、ひとつひとつをさらに時間をかけて、明確に、的確に行なつていきたいと考えています。

これまで、財団役員をはじめ、賛助会「木綿の会」会員の方々、たくさんのボランティアスタッフの皆様に支えられながら運営してきましたが、運営、財務とも少し余裕がなくなつてきているのが厳しい現状です。財団の事業は継続と普遍性が重要です。これからも財団の事業を理解していただくとともに、さらにコミュニケーションの機会を広げ、多くの方々とゆっくりとお話をする場所を持ちながら、事業そのもののご理解を深めていってくださいと考へる次第です。

今年の事務局のテーマは「対話すること」です。皆様の寄り合える場所、気軽に意見交換のできる場所を設けていこうと考えています。何事も、小さな一步から。何かあるときは、ぜひご参加ください。二人三脚が三人四脚に、四人五脚に・・と、少しずつ湯布院の未来を支えていくメンバーが増えていくことを願っています。他の団体の方々との連携、協力も主要な事業です。「この団体がこういうことに取り組んでいるよ」というような情報は大歓迎です。ご連絡ください。すぐに駆けつけます。今年度の事業のご意見をお待ちしております。

平成18年度収支予算書(概略)

(収入の部)

平成18年4月1日から平成19年3月31日まで

科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
基本財産運用収入	56,000	70,000	-14,000	5月24日満期
木綿の会 会費収入	500,000	900,000	-400,000	
事業収入	0	0	0	
寄付金収入	500,000	500,000	0	
基本財産収入	0	0	0	基本財産として指定された現
雑収入	100	300	200	受取利息
当期収入合計(A)	1,056,100	11,470,300		
前期繰越収支差額	5,500,000	132,300		
収入合計(B)	6,556,100	11,602,600		

(支出の部)

科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
事業費	ふれあい学習事業	1,700,000	1,700,000	0 国際ふれあい交流・体験学習
	情報ネットワーク事業	450,000	400,000	50,000
	助成・顕彰事業	500,000	600,000	-100,000 木綿の会に関わる事業
	賛助会事業	50,000	50,000	0
事業費合計	2,700,000	2,750,000	-50,000	
管理費	人件費	2450,000	2,450,000	0 給与・賃金(役員報酬はなし)
	旅費交通費	50,000	50,000	0
	福利厚生費	260,000	260,000	0
	会議・研修費	100,000	100,000	0
	通信費	170,000	200,000	-30,000
	消耗品費	170,000	170,000	0
	賃貸料	250,000	250,000	0
	雑費	55,000	55,000	0
	退職給与引当金	50,000	50,000	0 特定預金支出
	予備費	100,000	100,000	0
	基本財産積立支出	0	0	0
管理費合計	3,655,000	3,685,000	-30,000	
当期支出合計(C)	6,435,000	6,515,000		
収支差額(A)-(C)	-5,378,900	-4,955,300		
次期繰越収支差額(B)-(C)	121,100	5,087,600		

平成18年度 役員及び顧問

- ◎顧問／中谷健太郎（津江）
- ◎理事長／溝口薰平（湯の坪）
- ◎常務理事／佐藤晶（岳本）
- ◎理事／足利結佳（津江） 岩男淳一郎（乙丸）
大島喜久枝（乙丸） 金子裕次（湯平）
高倉忠雄（新町） 竹内正敏（塚原）
田中明美（西石松） 時松辰夫（湯の坪）

◎評議員議長／峰親則（上津々良）

◎評議員／麻生時寿（湯平）

阿部尚志（湯の坪） 衛藤文和（荒木）

大隈マスミ（乙丸） 太田豊美（岳本）

河野雄一（中川） 佐藤祥子（平）

佐藤春世（湯の坪） 霜野圭一（佐土原）

田代教二（新町） 中西ちせ（西石松）

松村真知子（中島） 吉野博美（湯の坪）

吉田曙美（西石松）

平成17年度 未来に夢を！助成金公募団体決定！

川西小学校児童クラブに授与

平成17年度「未来に夢を！助成金公募」事業の受章団体が決定し、5月15日理事会、評議員会の席上、授与式が行なわれました。

今回の「未来に夢を！助成金公募」事業は、残念ながら応募団体が少なく、規定に沿った中の選考を行なったところ、下記の団体に決定いたしました。

『川西小学校児童クラブ』

助成金額 200,000円

「川西小学校児童クラブ」は、平成18年3月に新しく設立された団体で、現在の共働きの家庭の増加、核家族化、少子化などの様々な要因から放課後の子供たちが安心して過ごせる場所が必要となってきていることを受け、その場所を作りと環境作りのために地域の力で何とかしようと活動を進めているグループです。

そういう状況の中、安心して子どもを預けられる場所に充分な設備を揃えたいが、児童クラブ保護者会で運営していくには予算的に限界があるということが、今回の応募の主な理由でした。



児童クラブ代表者と当財団溝口理事長

選考においても、「現代の核家族化において、必要不可欠なものとなってきているし、また、設立に至るまでの努力も高く評価したい」ということで決定。「学校創りは村創り、村創りは学校創り」の精神を大切に、学校、保護者、地域の皆様のご協力のもとで子どもを育てていくという温かな雰囲気を作り、その中で継続されていくことを望むものです。

財団の新しい事務局として働きはじめました、後藤郁子と申します。

財団事務局着任2ヶ月！

楽しさ、うれしさ、やりがい、不安・・・。毎日いろんな気持ちが交差していくため、フワフワと宙に浮いているような不思議な感覚が、体の中を駆け回っています。細胞が活発化しているような、若返ったような…。

（はい、気のせいです）ここで私は、人生のおもしろさに気がつきました。

そもそも私は、湯布院に帰ってくる予定など、ま～～ったくありませんでした。なんとなく、親の仕事を手伝いに1週間ほど帰ってきている時、ちょうど湯布院映画祭の野外上映の準備が行なわれていました。

『昔からこんなことしてたっけ？なんか湯布院って楽しそうやなあ』なんてことを考えてしまったもんだから、さあ大変！そこからすぐに当時の職場に電話をして、

はじめて 新人事務局の 後藤郁子です



湯布院に帰りたいから辞めさせてくださいと伝え（迷惑な話ですよね）、そしてそのまま湯布院に居座り、3ヶ月通いながら福岡の住居を引きいました。その当時はいろんな人に迷惑をかけてしまいました。懐かしい思い出です。（▽；）

そして、せっかく帰ってきたんだからと、自分自身も楽しむつもりでたくさんのイベントにスタッフとして参加させていただき、前事務局の今井さんと知り合い、時は流れて【弓継ぎ】のお話をいただいたのです。

人生って素晴らしい♪

一人で事務をしていかなければならぬということで、能力のない私が果たしてやっていけるのだろうかとすごく悩みましたが、「周りの方々が支えてくれる場所だから」ということで、引き受けました。無理をせず、出来る限りで頑張ってみようと。

働き始めた時、財団役員の方にお願いをしました。

『しっかりと私の帆糸をつかんでいてください。落ち着きのない私は、くるくると空回りをしてしまいそうです。』

着任して2ヶ月。感謝、感激状態です。素晴らしい方々に恵まれました。これからも頑張つていけそうです。

役員以外の皆様、これからも財団へのご理解とご協力よろしくお願いします。

支離滅裂で申し訳ありませんが、少しずつ成長していく予定ですので見守っていてください。



木綿の会

INFORMATION



私も会員です！ 岩尾 豊文さん（新町1）

「人材育成」というからには、何より財団の活動の中から人が育っていかねばならない。「人が育つとはどういうことだろう」この問いは財団を立ち上げるために「人づくり基金」が設置された1985年以来、財団が発足した1991年を経て現在に至るまで財団自身が抱え続けている課題だろう。

人が育つには時間がかかる。また、必ずしも育てる側が願つたとおりに育つとは限らない。「人材育成」には、そうしたおおらかな視点が大事だ。

財団にはむしろ人を育てようとする意識を捨てて、人や地域の「夢」を育む存在であってほしい。夢は人を向上させ地域を明るくする。人が夢を持って生きるとき、その人の人生が輝き、人々の生き様に触発された人や地域が少しずつ変わり始めるのだと思う。

少子高齢社会の中、子どもだけを対象と見るのではなく、由布市という拡大された生活エリアの中で、地域に住む人々の夢を育む「人材育成ゆふいん財団」であってほしいと願っている。

寄附のご報告

特別ご寄附をいただきました。財団の運営に有意義に活用させていただきます。

香典返しとして

島田 龍夫さま

100,000円

支えよう！
育もう！
これから
マチづくり
ユメさがし



人材育成ゆふいん財団を応援してくれる ボランティアスタッフを募集しています！

年齢・性別は問いません。

得意とする分野で、あなたの力を貸してください。発揮してください。

《例えば・・・》

- 湯布院の歴史や伝統の知識を持っている。
- パソコン操作に自信がある。
- 文章を書くことが大好き。
- 子どもたちと一緒にいることが大好き。
- 体力には自信がある。
- 人とのつながりをつくりたい。

☆ご連絡、お待ちしています☆

財団事務局：85-4748まで

木綿の会 新規会員募集中！

未来を育む会員の仲間に
なっていただけませんか？

お申込みは、とても簡単です。

由布院観光総合事務所(クアージュゆふいん内)にある財団事務局にご連絡いただきか、または、お近くの財団役員までご連絡ください。
年会費は次の通りです。

■個人会員

一口 1,000円

■団体会員

一口 10,000円

お申込みお待ちしております。

※財団役員は3ページをご参照ください。



ゆふいん元気! TOPICS



湯布院中学校 ソフトボール部 選手権優勝 おめでとう!

5月3日～5日、第7回女子中学ソフトボール選手権大会が行なわれました。この大会は、県総体の前哨戦として、どのチームも力を発揮してくる大会です。その選手権大会で、見事優勝の栄冠に輝いたのが！湯布院中学校女子ソフトボール部のみなさんです。

選手権大会で一番印象に残っている試合について質問をすると、口を揃えて『日出戦！』と答えてくれました。新人戦で敗れたという苦い思い出があつた日出とは、今大会では、準々決勝で対戦。いきなり5点差をつけられてしまい、ピッチャーの麻生若葉さんは【もう駄目だ、無理だ】と考えてしまったそうです。そのとき、すかさずタイムをとり、ピッチャーを元気づけに走ったのが、キャッチャーの大島由樹絵さん。他のメンバー

も「大丈夫！落ち着いていこう」と声をかけあい、そこから、素晴らしいチームワークで猛反撃！打たなければ点は入らない、墨にでたらつないでいく、口で言うほど簡単なことではありますがないが、必死に踏ん張り、見事5回裏に6対5で逆転！1点差を氣を抜かず守り抜き、勝利したということでした。その後も順調に勝ち抜き、優勝することができたのです。

5点差をひっくり返すのは、プレッシャーとの戦いになり、精神的にもきつかったと思われますが、お互いに支え合い、今回の結果につながったのではないかでしょうか。本当におめでとうございます！



普段の練習風景も見学させていただきました。ランニングや準備体操を念入りにした後、キャッチボール、ピッティングマシーンを使っての打撃練習へと入っていきました。素晴らしいのは、みんなどんどん打ち返していくこと。基礎をしっかりと学んで、力をつけていることを感じました。

このチームは、とても仲の良いメンバーで、3年生8名は、一度もケンカをしたことがないと嬉しそうに話してくれました。きっとこの先、幾多の困難にぶつかっても、支え合いながら乗り越えていけることでしょう。

7月下旬には、いよいよ県総体！キャプテンの志手香菜子さんを中心に、力を合わせて頑張ってきてください！

『湯中
ファイ！
オ～』



湯布院中学校ソフトボール部 顧問：後藤元春さん (保健体育)

今回は、上記で紹介しているソフトボール部の顧問、後藤先生にお話を伺いました。

湯布院中学校に来て5年、ずっとソフトボール部の顧問をさせてもらっています。

先生自身も小学4年～中3まで野球部に所属し、郡大会(挾間・庄内・野津原・湯布院)で優勝するため、必死に練習をし、中学3年の夏、当時、挾間中学野球部の主将として部員をひっぱり、見事優勝に輝いたことが、良い想い出だと話してくれました。

今回優勝チームの顧問として、次の県総体に向けて練習に励んでいる部員へのメッセージをお願いしました。

『リードされても、諦めずに逆転していける粘りはある。だが、ゲームの序盤に、簡単にリードを許してしまうことがしばしばある。試合の流れを考えて、プレーすること。特に、ゲームの立ち上がりで上手く流れをつかめるようになってほしい。本当の目標

ゆふいん あの人この人



生徒から
モッティといふ
愛称で・・・

は、県総体を制すこと！そして、湯布院中学校に優勝旗を持って帰りたい。応援してください、多くの方々に感謝の気持ちを忘れず、期待に応えられるように、日々努力していく』

後藤先生が指導してくださっているソフトボール部の部員は、挨拶もしっかりとしていて、とても感動しました。素晴らしいチームになっていると思います。先生の座右の銘、『継続は力なり』の精神を、部員にしっかりと引継ぎ、県総体でも優勝目指して頑張ってください。心から応援しています。

かつての卒業生には、陰で「モッティ」という愛称で呼ばれていたようですが、お心当たりの方は大勢いるのではないかでしょうか？しかしながら！現在の生徒には、堂々と呼ばれてしまっているようです！恥ずかしいような、嬉しいような・・・。素敵なお笑みを浮かべてくれました。

ゆふいん元氣！TOPICS



第8回

子どもメン食い絶叫大会！！

平成18年4月9日(日)開催



子ども達の元気な瞬間！

ご報告が、遅くなりました～！
4月9日に開催された『メン食い絶叫大会』のレポートです。

ゆふいんファミリーが主催しているこのイベント。この日は、あいにくの曇り空・・・。雨を心配しながらも、楽しみにしてくれている子どもたちのため「絶対に成功させてやる！」と素晴らしい気迫をみせてくださいました。

このイベントは、みんなで【お面】を作り、【メン】を食べるという、風変わりで、ダジャレのきいたイベントです。

受付終了後から、子ども達は大忙し！

各自持参した、厚紙や空箱、マジックを取り出して、お面作りに夢中です。場合によっては、お父さん・お母さんの方が夢中になりすぎたり・・・。



出来上がった子ども達は、お面をつけて走り回っています。孫悟空・トトロ・鬼・怪獣・・・。それは見事な光景でした☆

さあ！お面を披露する時間！

絶叫の受付をした子どもは、順番に絶叫台へ。お面をつけて、思いのだけを呼びます。声の大きさ、迫力に、審査員の方達も驚いていました。

そして最後に登場したのは【メン】です。今年は、山菜焼きうどんでした。由布院料理研究会のみなさんの力作で、他に地鶏汁もありました。また、すずな会の方たちの手作り石垣もちやおにぎりもあり、お腹いっぱいの子ども達は、とても満足そうな笑顔見せてくれました。

また来年、お会いしましょう！

未来に夢を！ 助成金交付事業＊公募のお知らせ

取り組みたい『夢』 応援します。

来年度、夢のある企画実施に向け、ぜひご応募ください。内容に応じ、最高額30万円までの助成金が交付されます。

《応募要綱》

■応募の資格■

湯布院町内の団体、グループ、個人とし、主体的に活動、事業の推進ができるところに限ります。

■応募方法■

所定の様式に従って応募してください。詳細については、事務局までお問い合わせください。

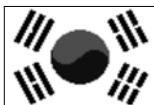
応募の締切

平成18年12月29日(金)

※発表は今年度3月中、助成金交付は来年度4月以降になります。



第5回 ゆふいん～アジアふれあい交流子ども使節団 団員募集！！



海外旅行ってどんな感じ？

韓国ってどんなところ？

聞くよりも直接自分で見に行きませんか？

今年も、子ども使節団団員を募集いたします。

視野を広げるため、お友だちを増やすため、

外から日本・湯布院を見てみたい、理由は様々。

行動してみなければ、何も始まりません。まずは、ここから！一歩前進してみましょう。

ご応募、お待ちしています！



●旅行期間：8月25日～27日(金～日)

●目的地：韓国・ソウル

●参加資格：小学6年生～中学3年生

●募集人員：12名

●参加費用：15,000円

●応募方法：各学校にて配布しました応募用紙に必要事項を記入していただき、PR欄に『韓国への想い』・『家族への想い』など好きなことを好きなだけ書き綴ってください。

絵が好きな方は画用紙にお好きな絵を書いてのご応募でも受け付けます。(大きさ自由)

●選考方法：PR欄に記入していただいた内容と面接によって、団員を決定いたします。お気軽にご参加ください。

●旅行日程：

1日目＊ソウル市内にて、国際交流。一緒に夕食を食べ、その後東大門見学。

2日目＊韓国民族村・世界遺産華城の見学。午後からロッテワールド、班行動。

3日目＊景福宮見学・仁寺洞にて買い物。

●交流レポート：帰国後、レポートをまとめさせていただきます。その後1冊の本にします。

小学校6年＊日野由有稀

韓国の人人が目の前のキムチをパクパク食べていたので、食べてみると、日本よりも辛かったです。

小学生は私一人だったけど、中学生の人がとてもやさしくしてくれたので、とても楽しかったです。

中学校2年＊溝口亜友

飛行機で韓国に着き、空港を見た時、日本とまるで違い、しゃべっている人たちも案内の看板も韓国の言葉でした。

韓国のお友だちと食事をしている時、言葉がわからなくても楽しくできることに気づきました。

中学校3年＊河野沙耶

韓国の子はみんなとても明るく、すぐに仲よくなることが出来ました。言葉が通じない中でも、心は通じるという事を感じました。

韓国のいろんな文化を勉強できて、改めて他国の素晴らしさを学ぶ事ができました。

中学校3年＊水野真理子

韓国で一番したかったのは、友だちを作るということでした。一緒に写真を撮ったりして、楽しい時間を過ごせました。今では、特に仲良くなったり人とメールをしています。英語でのメールですが話もちゃんと通じるので楽しいです。

中学校3年＊河野涼

今まで思っていた韓国のイメージと行ってからのイメージはかなり違うと思います。そんな事を体験することができて本当によかったです。もっと世界の事を知りたいと思います。そんなことを教えてくれたと思っています。

中学校3年＊三宅重慶

僕はプルコギを食べたことがなかったので、どんな味か楽しみでした。韓国の方の子達は、手馴れた様子でお肉をツツツツ切っていました。その手つきはとても豪快でした。そして、プルコギを食べたとき、その味に感動しました。

《第4回使節団 団員見聞録より抜粋》